

平成30年度 学校評価シート(自己評価)

学校法人 ひつじ幼稚園
ひつじ幼稚園

当園ではこの度、平成30年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施致しました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直す良い機会となりました。

また、それぞれの自己評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 園の教育目標

「心やさしく、いきいきと、体のびのび、たくましく」を目標に、学校教育法の「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の5領域の内容について、伸び伸びと自然に学べるように、きめ細やかな配慮と指導を行っています。そして、一人ひとりの子どもの持っている能力を引き出すことにつとめ、思いやりと創造性豊かな子どもになるように、明るく生き生きとした楽しい保育を目指します。

目指す子ども像

- 明るく元気な子
- 素直で思いやりのある子
- 創造性豊かな子
- よく考えて自分の意思の出せる子
- 人の話を落ち着いて聞ける子

II. 平成30年度の重点目標

- 教育内容、教育方針、目標の理解に努め、子どもの成長や発達にあった保育計画をたて、保育環境を整える。保育活動や行事を充実させる。
- 食育の充実や動物への思いやる気持ちを持たせる
- 教職員同士の協力・連携をはかり、教職員体制を確立させる
- 幼児や保育についての研究をし、研修会にも積極的に参加をして理解を深める
- 園の安全・衛生管理体制を充実させる
- 保護者との連携をはかる
- 教職員としての資質向上につとめる

III. 平成30年度の評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み内容	結果	結果の理由
1. 教育内容	・保育活動・保育計画が子どもの実態をもとに考えて作成されており、幼児の指導が充実している ・幼児のみとりと理解に努める ・行事を充実させる	A	・愛情をもって関わり、温かく優しく支援し、根気良くゆっくりと成長を見守っていくことができた。一人ひとりの個性を大切に、可能性を引き出すことに努めることができた。
		A	・全園児が、日々充実した楽しい生活が出来るよう配慮できた。
		A	・幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、生活全体を援助し、教育活動が展開できるよう努めることができた。
		B	・一人ひとりの気持ちに寄り添い、言葉に出来ないサインを、受け止められた。
		A	・発達や成長にあわせた保育計画(日案・週案・月案)を立て、ゆとりを持って、新しい活動を取り入れることができた。
		A	・体力づくりのためにも、晴れているときは、外遊びの時間をつくるよう心掛けた。
		A	・子どもたちが自ら考え発想や想像力が育つように、それぞれの活動に楽しく積極的に取り組めるように、保育環境を整え、保育や指導の仕方を研究することができた。子どもの成長にとって大切な経験や体験を取り入れることができた。
		A	・子どもたちの興味を引き出せるように、子どもにあった保育内容や環境を工夫できた。
		B	・子どもたちが動植物に関心を持ち、生長を観察したり、世話ができるような環境を整えることができた。
	A	・子どもたちが自ら考え、発想や想像力が育つように、また、それぞれの活動に楽しんで取り組めるように、保育環境を整えたり、保育や指導の仕方を研究し、工夫していくことができた。	
	B	・行事(特に運動会・お遊戯会・作品展)ごとの目標と目的を理解し、時間にも気持ちにもゆとりを持って幼稚園全体で連携し、取り組むことができた。	
	2. 教職員体制の充実	・専門講師の指導をやる気を持って行う	A
・絵本の読み聞かせを積極的に行う		A	・絵本や紙芝居を読んだり、季節の歌をうたったりする時間を多く取り入れた。また、季節のごとの自然現象や行事の由来等を保育の中でわかりやすく教えることができた。
・教職員体制を充実させ連携を図る(全体と学年ごと)		A	・教職員間のコミュニケーションを大切に、情報交換を密にし、連携をはかり、幼稚園全体で問題を解決して行くことができた。
		B	・子どもの様子や送迎コースの申し送りをしっかり行った。

	・教職員間の情報交換をしっかりと行う	A	・教職員間で意見交換を行い、お互いの良いところを認め見習い、保育の向上に努められた。	
3. 研修と研究	・研修・研究の取り組み	A	・子どもたちが楽しく感じ、興味の持てるような保育を行えるよう研究し、それを保育に取り入れることができた。	
		A	・意識して他の教職員の保育の仕方を学び、他の教職員の保育の良いところを見習い、自分の保育にも取り入れることができた。	
		A	・より良い保育を行うため、自分が苦手とする分野の向上に努めることができた。	
	・研修会へ参加し、研修会後の情報交換を行う	B	・研修会に参加し、保育者としての質の向上に努めた。さらに研修会で学んだことは職員会議で意見交換し、全員が理解を深められるようにできた。	
4. 安全・衛生管理	・安全な園生活の見直しと、衛生面の管理を行う	A	・保育室やトイレ、遊具などの掃除をきちんと行い、清潔に保つことができた。	
		A	・健康な生活に必要な習慣や態度が身につくような声掛けをしたり、その場に応じた支援を行った。手洗いやうがい、廊下は走らない、右側通行などの指導に努め、幼稚園全体で注意していくことができた。歯磨きの習慣づけることができた。	
		B	・正面玄関のドアを必ず閉めるよう、徹底することができた。	
		B	・来客者に名札の着用と、来客者リストの記入を徹底できた。	
		A	・より安全に登園・降園できるように、やり方や時間等を見直し、改善できた。通園コースの人数確認を徹底し、安全に通園できるよう配慮した。	
		A	・子どもたちが危ない遊びをしていないかよく見て、危険と判断したことは、対処方法を話し合い、事故や怪我がないよう、徹底した。	
		・フッ化物洗口事業へ	A	・30年度も引き続き、年長組は、週2回フッ化物洗口を行い、歯科衛生士による歯の健康教育も受け、虫歯予防への意識を高めた。また、年中組は子どもと保護者が、歯科衛生士による歯の健康教育を受け、次年度から始めるフッ化洗口に向けて、水でブクブクうがいの練習をして虫歯予防の意識を高めた。また全園児が昼食の後、歯磨きを行い、歯磨きのやり方を習慣づけていった。
		・空気洗浄噴霧器(ハセッパ水)の設置	A	・各クラスと正面玄関に空気洗浄噴霧器(ハセッパ水)を噴霧させ、衛生管理を強化した。保育室の除菌を行い、清潔に保つことができた。
		・避難訓練の充実 ・防犯や自然災害への対策	A	・防災ずきんをかぶり、定期的に避難訓練を行い、子どもたちの意識を高められた。
	B		・地震等の自然災害や不審者が侵入したときの対処の方法について、教職員が普段から確認しあい、一人ひとりが実践できるよう意識した。	
	・安全点検票に基づく、定期的な安全点検等	A	・安全点検票に基づき、園庭や園舎内で危険なところがないか、定期的に点検を行い、子どもたちが安心して活動できるような環境を整えることができた。	
	・講習会	A	・消防署により救命講習に全教職員が参加した。応急手当の方法や、AEDの使い方について学び、理解を深め、意識を高めることが出来た。	
5. 食育の充実と動物への思いやり	・食育教育の充実に努め、関心を持たせる。 ・お米や野菜の栽培	A	・食事の時間が嫌にならないように、無理に食べさせることはせずに、みんなで一緒に食べることの喜びや、楽しさを感じさせ、自発的に食べたいと思えるような環境づくりを工夫した。	
		A	・食べ物に対して感謝の心や親しみを感じることができるよう、野菜や果物を育てたり、食材に触れる機会を保育の中に取り入れた。 ・年長組はミニトマトやキュウリなどの夏野菜を栽培し、7月にはサラダ・カレーライスパーティーを行った、幼稚園全体ではお米作りを行い、食育に取り組むことができた。また芋掘り遠足、ジャガイモ掘り遠足などを通し、食べ物への興味や関心を高めることができた。	
		・生き物への関心と思いやる気持ちを持たせる	A	・幼稚園で飼っているウサギや亀、金魚をかわいがり、動物を思いやる気持ちを持たせることが出来た。 ・カブト虫を卵から、幼虫、さなぎ、成虫に育て、昆虫(生き物)への興味や関心を高められた。
6. 保護者との連携	・情報の発信と受信 ・保護者会と個人面談 ・メールサービス、プリント等で連絡	A	・子どもがいつもとは様子が違うときは、保護者と密に連絡をとり、連絡帳、電話、面談などで十分に話し合い、解決するよう努めた。	
		A	・保護者に子どもの幼稚園での様子を話し、コミュニケーションをとり、子どもの共通理解に努めた。	
		A	・保護者と園との共通理解のため、保護者会・クラス会などを開催し、情報を共有した。	
		A	・全園児にメールサービスの登録をしてもらい、一括して情報を配信できた。行事の前のお知らせや、急な変更事項等、メールサービスを利用して連絡網よりもスムーズに情報提供を行えた。	
		・行事への手伝い	A	・無理のない範囲で、行事の手伝いやプールの着替えの手伝い等(保育参加)をお願いし、保護者と園とで行事などがさらにより良いものとなるように協力していただいた。園の行事への理解を深めていただけた。
	・守秘義務の遵守	A	・家庭の情報を口外せず、各家庭状況等にも配慮するよう努めた。	
7. 教職員としての資質向上	・教職員全員が意識して質の向上に努める ・苦手な分野の向上 先輩教員からの学び ・研修会への参加 ・好感の持てる言葉遣いや身だしなみ	A	・子どもたちが楽しめる保育を行えるよう研究に努め、良かったことは教職員同士共有し、更なる向上に努めた。	
		A	・より良い保育を目指し、自分の不得意なことに対してより向上できるように、苦手分野に積極的に取り組み、また、日々の反省をきちんとし、探求心を持つよう努めた。	
		A	・教職員同士で良いことはお互いに学び、苦手なことは向上できるように努めた。また、他の教員の保育の仕方を積極的に学んだり、わからないことは先輩教員へアドバイスを求めた。	
		B	・ひつじ幼稚園の教職員であることの自覚を持ち、好感の持てる服装や髪型、先生らしい態度や言葉遣いを心掛けた。	

IV. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	教師一人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。評価項目の1～7のすべてにおいて意識し努力しており、概ね目標を達成することができた。特に、教育内容・教職員体制の充実への取り組みには、大変力を入れていた。平成31年度(令和元年度)も引き続き、幼稚園の全教職員で課題に取り組んでいき、今回の結果がBのところはAになるように、Aだったところはさらにより良いものになるよう、取り組んでいきたい。

V. 平成31年度(令和元年度)に取り組む課題

1. 教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の指導と保育活動 ・行事の充実 ・幼児のみとりと理解 ・環境づくりの工夫 ・専門教育 ・動物や植物への関心 ・読み聞かせ ・絵画指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>愛情をもって関わり、温かく優しく支援し、根気良くゆっくと成長を見守っていく。一人ひとりの個性を大切に、可能性を引き出すことに努める。</u> ・ <u>全ての園児たちが、日々充実した楽しい生活が出来るよう配慮する。</u> ・ <u>幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、生活全体を援助し、教育活動が展開できるよう努める。</u> ・言葉に出来ないサインを、きちんと受け止められるようにする。 ・発達や成長にあった無理のない保育計画を立て、時間に余裕を持って、新しい活動を取り入れる。 ・体力づくりのためにも、晴れているときには、必ず外遊びをするようにする。 ・子どもたちが自ら考え、発想や想像力が育つように、子どもたちがそれぞれの活動に楽しく、積極的に取り組めるように、保育環境を整え、保育や指導の仕方を研究し、工夫していく。子どもの成長にとって大切な経験や体験を取り入れていく。 ・子どもたちが自発的に活動できるよう、子どもが主体的にかかわる環境を整える。 ・想像力豊かな絵画や作品ができるように、いろいろな経験や体験ができるような保育を工夫する。 ・異年齢児との交流を深められるよう環境を整え、学年を超えて交流を深める。年長児は年中少児への思いやりの気持ちを育み、また年中少児は年長児に対して憧れの気持ちを持たせる。 ・英語や体操、リトミックなどの、専門講師による指導に、やる気を持って参加できるよう工夫し、予習や復習を行う。 ・子どもたちが動植物に関心を持ち、生長を観察したり、えさをあげたりができるように、環境整備を行う。 ・絵本や紙芝居を読んだり、季節の歌をうたったりする時間を多く取り入れる。また、季節のごとの自然現象や行事の由来等を保育の中でわかりやすく教え、理解を深める。 ・行事(特に、運動会・お遊戯会・作品展)ごとのねらいを理解し、時間にも気持ちにもゆとりを持って、学年及び幼稚園全体で連携しながら、取り組んでいく。前年度の反省をふまえ、時間を短縮したり内容を変更したり、改善していく。
2. 教職員体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員体制を充実させ連携を図る(幼稚園全体・学年ごと) ・送迎コースの申し送りの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間で情報交換を密にし、連携をはかって行く。幼稚園全体で問題解決していく。さらに学年主任を中心に、学年ごとでも話しあい、情報交換などを密にし、学年でも連携を図っていく。学年ごとに見通しを持った計画をたて準備を十分に行う。 ・新任の教職員に対して、時間をとってわかりやすく教える。また、保育等についてわからないことがあったときは、いつでも先輩の先生に聞けるような環境をつくり、コミュニケーションをはかる。 ・教職員間で意見交換を行い、お互いの保育の良いところを見習うようにする。 ・子どもの様子や送迎コースの申し送りを徹底し、しっかり把握する。
3. 研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> ・研修・研究の取組み ・研修会への参加 ・他の教職員からの学び ・苦手分野の意識と向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが集中し楽しめる保育を行えるよう研究に努め、良かったことは職員間で共有し、更なる向上に努める。 ・積極的に研修会に参加し、保育者としての質の向上に努める。さらに研修会で学んだことは職員会議で意見交換し、全員が理解を深められるようにする。 ・意識して他の教職員の保育の仕方を学び、向上に努める。 ・振り返りを行い、より良い保育を行うため、自分が苦手とする分野の向上に努める。

<p>4. 安全・衛生管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な園生活の見直しと、衛生面の管理 ・通園コースの確認 ・空気洗浄噴霧器の設置 ・フッ化物洗口事業への取り組み ・避難訓練の充実 ・防犯や自然災害への対策 ・安全点検票に基づき、定期的な安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間で協力し、労働時間内に効率良く、業務を終わらせる。 ・保育室やトイレ、遊具などの掃除をきちんと行き清潔に保つ。 ・健康な生活に必要な習慣や態度が身につくような言葉掛けをしたり、その場に応じた支援をする。特に、手洗いやうがい、廊下は走らない、右側通行などの指導に努め、幼稚園全体で注意していく。また、全園児が歯磨きを習慣づけられるようにしたり、食事のマナーをしっかりと身につける。 ・防犯対策として、正面玄関のドアを必ず閉めるよう、さらに徹底する。時間を決めて、きちんと閉まっているか確認をする。また幼稚園周辺にも注意する。 ・来客者に対しては、名札の着用と、来客者リストへの記入を徹底する。 ・より安全に登園・降園できるように、やり方や時間等を見直し改善する。通園コースの人数確認を徹底し、安心安全に通園できるようにする。 ・空気洗浄噴霧器(ハセッパー水)を噴霧させ除菌を行い、保育室を清潔に保つ。 ・引き続き年長児希望者には、川越市の事業「フッ化物洗口事業」を実施し、歯科衛生士による歯の健康教育を受け、虫歯予防に努め、また意識を高める。また年中組では、その準備を行う。 ・防災ずきんをかぶり、定期的に避難訓練を行う。 ・地震等の自然災害や不審者が侵入したときの対処の方法について、教職員が普段から確認し、理解を深め意識を高める。 ・安全点検票に基づいた安全点検を行い、園庭や園舎内で危険なところがないか、遊具の安全確認等、注意していく。
<p>5. 食育の充実と動物への思いやりと関心</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食育への取り組み ・環境づくり ・行事の充実 芋掘り遠足 ジャガイモ掘り遠足 サラダパーティ ・生き物との触れ合いと 思いやり 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の時間が嫌にならないように、無理に食べさせることはせずに、みんなで一緒に食べることの喜びや、楽しさを感じさせ、自発的に食べたいと思えるような環境づくりを工夫する。 ・食べ物に対して感謝の心や親しみを感じることができるよう、野菜や果物を育てたり、食材に触れる機会を保育の中に取り入れる。年長組はミニトマトを栽培し、7月にはサラダ・カレーライスパーティを行い、食育に取り組む。また芋掘り遠足、ジャガイモ掘り遠足などを通し、食べ物への興味や関心を高める。 ・カブト虫を卵から、幼虫、さなぎ、成虫に育て、昆虫(生き物)への興味や関心を持たせる。 ・幼稚園で飼っているウサギや亀、金魚にえさをあげるなど、環境を整え、動物とのふれあう機会を増やし、動物を思いやる優しい気持ちを育む。 ・紙芝居や絵本等を通し、虫や動物に興味を持ち、自然を大切にする気持ちを持たせる。
<p>6. 保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信と受信 ・保護者会や個人面談 ・メールサービス、プリントなどで連絡 ・行事への手伝い ・保育参加 ・守秘義務の遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがいつもとは様子が違うときは、保護者と密に連絡をとり、連絡帳、電話、面談などで十分に話し合い、解決するよう努める。 ・また、保護者に子どもの幼稚園での様子や、エピソード等をお話しし、積極的にコミュニケーションをとるようにし、お互いの理解を深める。 ・保護者と園との共通理解のため、全体では保護者会・クラス会などを開催し、情報を共有する。 ・全園児にメールサービスの登録をしてもらい、行事の前のお知らせや、急な変更事項等は、メールサービスを利用して一括して情報提供をする。 ・保護者の方から意見を聞き、保護者のニーズに合わせて、行事や役員の仕事内容を見直しし、改善する。 ・個々の子どもや保護者、家族の情報は、決して口外しない。
<p>7. 教職員としての資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育研究と保育技術の向上 ・日々の振り返りと、反省と改善 ・苦手分野の向上 ・他の教職員からの学び・服装・身だしなみ ・態度や言葉遣い 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにより深い学びや、感性を育てるためには、自分自身も実際に様々な体験や経験をして、自らの感性を磨くようにする。良い保育を目指し、自分の不得意なことに対して向上できるように、向上心とやる気を持つ。また、日々の振り返りをきちんと行き、課題を解決していく。 ・子どもたちが楽しめる保育を行えるよう研究に努め、良かったことは教職員同士共有し、更なる向上に努める。 ・教職員同士で良いことはお互いに学び、苦手なことは向上できるように努める。また、他の教員の保育の仕方を積極的に学んだり、わからないことは先輩教員へアドバイスを求めたりする。 ・ひつじ幼稚園の教職員であることの自覚を持ち、好感の持てる服装や髪型、先生らしい態度や言葉遣いを心掛ける。

平成30年度 学校評価シート（学校関係者評価）

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

・評価項目の達成状況については、すべての項目において、丁寧に振り返りができていた。概ね適切であると思われる。

2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・概ね適切であると思われる。1人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。
- ・特に、教育内容と教職員体制への取り組みには、力を入れており、充実していると感じられた。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・今年度の反省点が活かされた課題が設定されているので、適切な内容である。
- ・教職員一人ひとりが教職員としての資質を向上できるような内容である。
- ・また教育内容も充実しており、園児一人ひとりにあった教育や保育が展開できるよう、課題が設定されており、適切である。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・取り組みのほとんどが適切に行われている。